

日本海区水産試験研究

## 連絡二二一人

日本海

(52)

## 底魚調査に望むもの

山口正男

海区水産研究所で底魚調査が開始され、底魚に就いての問題の数々が熱心に討議研究され、歩一步と進行している。とにかく底魚の重要種の魚体組成というものも随分明かになつたし、その生態面も以前に倍して明らかにされ、資源維持方策の基本條件の解明に貢献していることは確かであろう。これららの研究の方向性といつたものはそれぞれ専門的な研究計画によつて進められているにしても、根本的に資源維持を云々するにはまだまだ長年の調査研究が必要であるうし、まだ現今の大半ではその途についたばかりとみられよう。私個人としても私なりに愚にもつかぬ意見を底魚研究に持ち続けているし、最近の研究動向をみると、今までの個々の重要な種のみの研究から脱して底魚の総合的な社会性について研究が進められている傾向が感知される。底魚の食性傾向の問題や食性環の追求は今後における問題の一であるし、この

第53号

新潟市万代島  
日本海区水産研究所印刷  
株式会社早川商店  
昭和30年6月1日発行

無な底魚社会といふものを作成にとつて群集としての取扱いに於て研究を展開してゆく強力な一派の研究グループの発生が望ましい。底魚は砂糖にかかる。そしてこの底魚とアリマキの共同生活、こうした所にはまた底魚研究の進まなければならぬ問題を示唆している。底魚のたかり場、そこが底魚の好漁場である。底魚漁場の対食性生物の研究もこの一つであり、その一端として底棲生物がある。この問題はすでに部分的には古い研究歴をもつ、Mortensen(1897)の業績にもみられ、最近では松井(1951)のキグサ底魚場とオキノテヅルモヅルの關係など私の云わんとする底魚漁場の生物学的研究展開の一端を形成している。Vervet(1952)の英國近海トロール漁場の海底写真撮影による蛇尾類の一種の巣窟分布区の発見により漁場価値の判定に注目していることなど我々が大いに学ぶべき研究方向ではなかろうか。

底魚は漁具を用いてくる以上、底魚漁場の底魚群構造の研究など大いに展開すべき底魚研究の方向ではあるまい。底魚は漁具を用いてくる以上、底魚漁場の底の平坦なことを希うのは勿論である。ここに一例として底魚群と底棲生物群と混飼との関係がある。この中で対して前育と後育とは現在の象徴的例によつても利害が相反して三十年度事業計画の再検討及び三十一年度予算審議打合、その他について協議するため水産研究所長会議が開催される。

六月七日、農林省会議室において  
(秋田県水試)

## 水産研究所長会議開催

## 主なる項目

第五十三号

山口正男

- 底魚調査に望むもの 山口正男
- 対馬暖流漁業試験内容の変更あり
- 試験研究拠点に対する要望 高橋長吉
- 福井県漁村青年連合会協議会発足す
- 第五十回研究講話会開催
- 予告
- 魚探 今井尚信
- 許容限界問題などもつと研究が展開されてもいいと思つてゐる。
- 底魚研究に於てもつと以上の様な面に研究努力がはらわれてもよい。底魚も海中社会の一員である以上、他の生物との群生活とさりはなしした單一追求はありえない。

## 煉製品改良普及開催会 開催される

晩春、初夏にかけて新潟市では、煉製品特賣者にも不安を與えているので、五月十日新潟市主催のもとに品質改良普及会が日本水研講堂で開催され、益善主及び従業員六十名が参集し、左記の講演があつた。

「新潟市に於ける力マホコ加熱状況調査報告

日本水研利用部長

野口技官

二、新潟市に於ける力マホコの細菌検査の結果

新潟県公衆衛生課 名畠技師

三、煉製品製造時の魚肉の水晒について

日本水研利用部 畑 技官

四、スケトウダラ魚肉水晒によつて、どんな有効性分が流れるか

新潟原水試 清水技師

## 昭和廿年度の対馬暖流補助金配分を中心とする日本海ブロツク会議

五月十三日水産庁より手塚企画官出席、関係者約廿五名が参集し、日本水研講堂において開催された。

会議は午前九時より、まず手塚企画官より本年度予算の実態とそれにともなう補助金の内容について説明があり、ついで各県に配分額が示された。

午後からは今後本格的に実施する調査についてブロツク毎の会議がもたれ、調査計画、連絡方法、とりまとめ耗材等についての具体的な事項が論議決定された。

なお説明の要旨、ブロツク毎の決議事項は左記の通り。

### 一 手塚企画官説明の要旨

(1) 本年度予算はまだ議会を通過していないので補助金の額も決定的なものではない。

(2) 対馬暖流調査予算の總額が昨年より約一割五分削減されているので、この点を予めおふくみおきを願いだい。

(3) 各県配分で前年より減少のところもあるが、県によつては重点的な仕事を増となつた所もある。故に本年金額が多くても仕事を多く上乗年度は少くなるという事もあり、またこの反対の場合もありうる。

(4) 対馬暖流調査補助金の性格をよく認識して仕事をやつもらいたい。

(5) 配分額の増加については妥当と思われる資料を提出していくだけければ考慮する。

(6) 燃油消費量計算については種々な意見もあるうち、各官庁共通した単位を基礎にし

たのでこの点御了承願いたい。

二、ブロツク毎の決議事項

(3) サバ一本釣りについては青森・石川の六県水試で飼料、漁法、海況などの連絡をする。

(4) 佐渡北部諸港の漁場開発調査については、まず海底地形の大要を知るために佐渡・入道岬周について各県地先の調査線の計画を日本水研へ各水試へ石川、新潟、山形、秋田から提出し、日本水研は之を調整の上各水試に知報する。その後の漁業試験については堆上の担当区域を定めず、試験結果を日本水研及び各水試に速に連絡する。

(5) サバ一本釣りについては青森・石川の六県水試で飼料、漁法、海況などの連絡をする。

(6) 佐渡北部諸港の漁場開発調査については、まず海底地形の大要を知るために佐渡・入道岬周について各県地先の調査線の計画を日本水研へ各水試へ石川、新潟、山形、秋田から提出し、日本水研は之を調整の上各水試に知報する。その後の漁業試験については堆上の担当区域を定めず、試験結果を日本水研及び各水試に速に連絡する。

(7) 西部ブロツク

(1) 薩摩・竹島の堆の漁場開発調査についでは、島根、鳥取、兵庫が担当し、まず海底地形の大要を掴み深海底曳漁業試験を行う。

(2) 一方過去における資料を日本水研その他と交換すると共にイカ、サバなどの洄游生物についても開発調査を行う。

(3) これについては富山、福井、京都、兵庫の各水試で緊密な連絡をとり、次の事項を行う。

(4) 小ブリを主とする標識放流。

(5) 各漁場における魚体測定(体長、体重)

(6) 各漁場(出来るだけ多く)の類別月週

(7) 各漁場における漁獲高の日々調査

(8) 各漁場(出来ることだけ多く)の類別月週

(9) 各漁場(出来ることだけ多く)の類別月週

(10) 各漁場(出来ることだけ多く)の類別月週

(11) 各漁場(出来ることだけ多く)の類別月週

(12) 各漁場(出来ることだけ多く)の類別月週

(13) 各漁場(出来ることだけ多く)の類別月週

(14) 各漁場(出来ることだけ多く)の類別月週

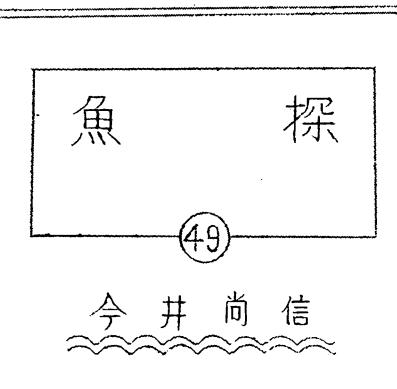
(15) 各漁場(出来ることだけ多く)の類別月週

魚の底の方から時々大小様々な沢山な真珠色の気泡が思い出したように飛び出して来る。潜水夫の作業中であることをすぐわかった。水に潜つて物をとつたり拾つたりすることは、おそらく原始時代からやっていたことだろう。そして誰もがもっと深いところにも潜つて、魚や海藻などをとつて食用にし、又さんざん等をとつて飾りたいたと幾度も考えただろ。日本で最初にかぶと式潜水具が使用されたのが安政四年であるといわれ、この潜水具を作った元祖は英人で、一七六〇年頃の発明だといわれるから、今から約二〇年前のことであつて、その後殆んどのものがあきらめさせていたことだろう。日本で最初にかぶと式潜水具が使用されたのが安政四年であるといわれ、この潜水具を作った元祖は英人で、一七六〇年頃の発明だといわれるから、今から約二〇年前のことであつて、その後殆んどのものがあきらめさせていたことだろう。

潜水用具が生まれ、潜水器具の種類が増えて、手軽に誰でもが海中の状態を直接潜して肉眼で色々なものを見たりとつたりする代りに、音波を使用して海中の状態を心眼で見ようとするまことに重宝な魚探が生れて、手軽に誰でもが海中の状態を

調査についての日本海アロツク会議で、本年度新規開発調査の連絡調整が行われた。五月十三日、日本水研における対馬暖流開拓調査のため、新規開発調査の連絡調整が行われた。

## 対馬暖流漁業試験内容の 変更あり



(富山県水試場長)

ねばならぬ等、核心にふれる頃は既に心病してしまふような現状でないかと思つてゐるので、魚探の発達と有効使用法を心待ちにすると共に可なりの深耕でも有りのまゝに直観出来るようなものの発見発明が生れて来るようわが水産のために新るのである。

想像しらるようになつて、ほんとうに感謝しているが、あの防波堤の潜水夫の代りに魚探が音波という遠視心眼を使用して、コンクリートアロツクの坐り具合を見てくるのは、いつ頃だろうかと待ち遠しく、鮎絆の姉さんを見ながら思われた。私はいつも水産の実際は余りにも心眼を使わねばならぬことが多過ぎて、実際がわからぬため各人各様に勝手に想像して結論付け話を中途から振出しに座らねばならぬ等、核心にふれる頃は既に心病してしまふような現状でないかと思つてゐるので、魚探の発達と有効使用法を心待ちにすると共に可なりの深耕でも有りのまゝに直観出来るようなものの発見発明が生れて来るようわが水産のために新るのである。

から一定の計画の下に実施されることとなつたが、今回その実際漁業指導面に対する水産序調整第一課の補助金配分が決定した。これによつて暖流開拓調査は、研究面と実際に漁船を誘導して行う漁業面とが一応整つたこととなつた。すなわち実際面においては、山形(最上堆方面)、新潟(瓢箪瀬、向瀬方面)、兵庫(経ヶ岬沖)、鳥取(隱岐島北方)の四県が主として担当することとなり、それに応じて、先に分配した暖流補助金の額が調整された。関係県に対する調整一課の補助対象は佐渡北方の磯については、本年も四月以来石川水試の手によって調査が続行されているが、指導船(県水試船)及びこれに随行する業者船二隻の計三隻である。船跡秋末最も注目をあびている、瓢箪瀬など佐渡北方の磯については、本年も四月以来石川水試の手によって調査が続行されているが、指導船(県水試船)及びこれに随行する業者船二隻の計三隻である。生物相が一変し、秋の主要漁獲物であるメバル類(*メバル*)は全くとれず、スケートウダラ、アカガレイ、ズワイガニ、カジカ類、ゲンゲ類を主とし、赤物は全く姿を消している(漁場は瓢箪瀬の南端部)。一網一五~三〇貫程度であるが、今夏の調査が済めば、一忘一か年にわたる生物相の変貌が把握されることとする。

なお、春の大羽イワシ漁が終り次第、石川新潟、山形、秋田の四県水試及び日本水研の五省共同で、佐渡一入道崎間の海底地形、地質の調査が実施される。

(日本水研)

年度予算の予算の割合について、ついで各県に配分額を示す。

新潟の日本水研下のシムを密にする。

195

## 試験研究扶助に対する要望

(六尋浜青年親和会)

高橋長吉

私共直接漁業水産に従事する者として、常に漁民直接の利害に余り関係のない学理的事項にのみ重点を置き、実際漁業の助けになることを研究しておらないように思います。

それ故漁民としては、これ等研究扶助を教導して、何等依存しようとしていな、有様である。このことは一面私共漁民が旧来の経験と感による漁法から抜け切つておらず、科学的に物事を判断しようとしたしない気持ちも多分に左右していることが考えられます。研究所の存在が象牙の塔にこもっている向もいなめない事実である。私共青年は漁業の民主化と科学的漁法によつて、疲弊した漁民経済を豊かにし、生活を改善したいと願つてゐる。

一、私共漁民に親しみやすい庶民的存在であることを。  
二、私共に直接関係のある漁辦面を研究テーマに取上げて研究し指導してほし。  
なお、漁政的方面の援助は無理なことかもされませんが、私共濱郷漁民の經濟は、年々苦しくなつておりますので、新らしい漁法や科学的知識を取入れるにも僅か十万廿万の資金すらもつともならず、専として遅れた漁法でやつてゐる現況である。何とぞ研究扶助では私共漁民の実情と洞察されて、お力になつて戴きたいことをお願いする次第である。

## 福井県漁村青年連合 協議会発足す

予告

四日クラブ、青年産業研究会、青少年協議会等があつて、郷土の向上のために着々成果を挙げてゐる向は、農村に多いが、漁村には、割合少ない。こうした研究会やクラブ活動が、奥地に則した無駄のない活動をしていることは既に注目されている處であるが、この慶應井原にも漁村青年の教養知識の向上、漁業技術の改善、經營の合理化や漁村生活の向上を目的として前記の協議会が、去る三月発足した。

(福井漁連)

## 第五十回研究談話会開催

あ  
と  
か  
き

若葉の色の深まりゆくにつれて、夏といふ感じが強くなつてしまひました。  
御繁忙中、日本海壇には山口技師、魚探調査には富山水試今井場などの玉藻を、又親和会の高橋長吉氏よりは試験研究扶助に對する卒直な御意尾をいただき、紙上より厚くお礼申上げます。

(原)

五月二十五日、日本水研講堂に於いて第五十回研究談話会が開催された。  
(日本水研)  
尚講演及び演題次の通り  
一、秋田県男鹿半島戸賀漁村の定置自営について  
二、資源計算団PODACについて  
山中義一(調査室)

山中一郎(資源部)  
細川信夫(利用部)

三、魚肉の水晒について